

第4学年 国語科学習指導案

1. 単元名 いろいろな意味をもつ言葉

2. 単元目標

多義語について知り、言葉への興味を広げる。

詩の音読や創作、クイズ作りを通して、多義語に興味をもつ。(関心・意欲・態度)

多義語に着目し、言葉遊びを通して語句を類別する。(言語事項)

国語辞典を使って、多義語のいろいろな意味を調べる。(言語事項)

3. 知的好奇心を引き出すための指導の工夫

(1) 指導の工夫

本単元の学習内容である、「一つの言葉がいろいろな意味をもつ」ということ、(例えば「とる」という言葉一つをとっても、「とる」ものは「帽子」や「ごみ」から「相撲」「写真」「脈」や「歳」と様々である。)それ自体が、児童の知的好奇心をくすぐる素材であると考えられる。しかし、抽象的になりがちな言葉の意味の違いを理解できなければ、多義語のおもしろさに気づくことはできない。そこで本単元では、多義語のもついろいろな意味を理解しやすくするための手立てとして、以下の手立てを考えた。

クイズを通して、一つの言葉でも目的語になる言葉は様々であることに気づかせる。(目的語を考えることで、具体的に言葉の意味を捉えやすい。)

詩の音読や動作化をしながら、言葉の意味の違いを具体的にイメージできるようにする。

国語辞典で意味を調べる方法をていねいに指導する。

また、個々の力に応じて活動を進め、それぞれが自分なりに多義語に親しむことができるように、以下の手立てをとる。

詩やクイズを作る活動では、自信の有無や学習形態の好みに応じて一人または二人での活動を選べるようにする。

作るクイズの数や詩の長さは、個々の力に応じたものを認め、活動の満足感を得られるようにする。

(2) 指導計画(全3時間)

クイズや詩の音読を通して、多義語について知り、興味をもつ。

言葉遊びの詩やクイズを作ることを通して、多義語についての理解を深める。(本時)

作った言葉遊びの詩やクイズを紹介し合い、学習のまとめをする。

5. 本時の展開

(1) 本時の目標

言葉遊びの詩やクイズを作り、多義語のいろいろな意味について理解を深める。

(2) 本時の展開 (本時 2 / 3)

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 前時のふり返しをする。 「とる」などの言葉には、いろいろな意味があったね。</p> <p>2 本時の学習活動について知る。 いろいろな意味の言葉を使って、言葉遊びの詩やクイズを作ろう。</p> <p>・「ひく」を例に全員で言葉遊びの詩やクイズを作る。</p> <p>3 言葉遊びの詩やクイズを作る。</p> <p>4 学習カードに本時のふり返しをする。</p>	<p>・初めは全員で一緒にやり、手順を確認する。</p> <p><言葉遊びの詩> 国語辞典を使って言葉のいろいろな意味を集める。 意味を考えて言葉を足し、詩を作る。(五文字や七文字がリズムがよい。)</p> <p><クイズ> 国語辞典を使って言葉のいろいろな意味を集める。 ヒントになる言葉を考え、クイズを作る。</p> <p>・一人または2人組で作る。 ・国語辞典を使いながら活動させる。 ・早くできた人(ペア)は、「紙に書いて教室に掲示する。」か、「音読を工夫して友達に聞いてもらったり(詩)、クイズ大会を開いたりする(クイズ)。」のどちらかを選びその準備をする。</p>